

編集後記

『年報』第34号をお届けする。本号は、前号にひきつづいて、所員からの投稿原稿で編集することになった。来年度は、統一テーマのもとに、グループ研究の成果を「特集」する形で編集したいものである。各研究グループの方々に、ご検討をお願いしたい。

本号の編集経緯について、以下簡単に記しておく。例年通り、昨年5月に投稿希望を募った結果、論文11編の執筆申し込みがあり、また編集担当の判断で、書評1編の執筆を外部に依頼した。論文11編の枚数だけで予定枚数を3割ほど上回っていたが、「不測の事態」にそなえて、お申し込みを有り難くお受けすることにした。締め切りは10月20日であったが、この期日の前後に、予想していたよりも多くの原稿が提出され、社研事務局員から、「今年は優秀です」とお褒めの言葉をもらったほどであった。お一人の原稿提出が限界近くまで遅れたとはいえ、結局執筆辞退はお二人にとどまった。ただし提出していただいた原稿のうちの何本かは、予想枚数を大幅に超過していたので、やむなく上・下の分冊形式をとっていただくようお願いし、了承をえた。また論文として提出された原稿1編は、執筆者の了解のもとに、資料とさせていただいた。刷り上がりページ数は400ページをこえ、『年報』としてはややヴォリュームのある方になった。執筆者のご協力に感謝するとともに、編集子の予想の甘さを反省せねばなるまい。

すでにご承知のように、今年度4月から、社研所長に古川純氏、事務局長に黒田彰三氏が、それぞれ就任され、新体制の社研がスタートをきった。また11月には、社研の50周年記念行事が、多くの参会者をえて、和やかな雰囲気のもとで盛大にとりおこなわれた。社研のこれからの50年にむけて、所員の方々をはじめ、皆さまのよりいっそうのご協力をお願いしたい。

最後になったが、今回もまた社研職員の竹内佐和子氏、公人社の大出明知氏にたいへんお世話になった。心から御礼申し上げる。

(酒井 進)